



千葉労働動向

反動村山政権打倒！銀がどろろが結集！

連合支配に抗し、労働運動に責任を問ひきよ。

十一月二〇日、一二時より、東京・日比谷野外音楽堂において、「倒せ村山政権―止め朝鮮侵略戦争―11・20全国反戦集会」が、反戦共同行動委員会主催により開催され、北は北海道から南は沖縄まで全国から二〇五〇人が結集し、朝鮮・アジアへと侵略の手を伸ばす反動村山政権打倒を訴え都心のデモ行進を行なった。

まず、主催者あいさつで反戦共同行動代表運営委員の佐藤芳夫氏は、「社会党・村山政権は『安保』『自衛隊』『原発』『日の丸・君が代』と四つの裏切りを行い、労働者を裏切り、怒りのつばさを突き上げる全国から結集した参加者



労働者に敵対する政党として誕生した。読売新聞の『憲法改憲試案』はとてつもない攻撃だ。今日からひとつの風となつて村山政権を打倒しよう」と、村山政権の反動性と朝鮮侵略戦争阻止を訴えた。

続いて、三里塚反対同盟、北富士忍草母の会から激励のあいさつをうけ、さらに、「日の丸」焼き捨て裁判を闘う知花昌一さんからのメッセージ、在日台湾元日本兵の林歳徳さん、部落解放同盟全国連・瀬川委員長、反戦共同行動代表運営委員の小西誠氏からそれぞれ特別スピーチをうけた。

次に、関西新空港反対を闘う住民団体を代表して泉佐野市議会議員の国賀祥司氏、反戦自衛官の片岡顕二氏、佐世保、小松、六ヶ所、女川の各地から反軍・反基地、反原発を闘う人々から、日本のいたるところで侵略へむけた準備が行なわれている現状が報告された。

基調報告では、滝口誠反戦共同行動委員会事務局長より、村山政権は、「羽田―小澤政権よりましな政権ではなく、より反動的な政権であること、アメリカの北朝鮮への踏み込みは日本のアジア支配を突き崩す、アジア再支配の動きであること、侵略戦争阻止へ全力で決起することなどが定期された。カンパアピールの後、決意表明にうつり、九五年統一地方選



横断幕を掲げ都心デモを行つた労働千葉と交流センター

を闘う三名の立候補予定者、学生、さらに、国労闘争団の仲間も含めて二二名が激闘の九五年に向け決意を明らかにした。

集会の最後に、反戦共同行動委・中野洋代表運営委員よりまとめ言葉として、「敗戦五〇年目の来年、村山政権はあらゆる問題の決着をつけようとする。これに対しわれわれが責任をもつて反戦闘争に立ち上がるのだ。社会党は転向したが、労働者は屈服していない。連合支配に抗し、労働運動に責任を取る闘いを展開しよう」と今後の闘いを訴えた。

労働運動の ルネッサンスかけ 12.18労働者集会へ結集を

労働運動の新たな潮流の形成をわれわれが、新たな労働運動の潮流を形成していくうえで決定的重要課題は、第一に、大失業時代に抗する労働運動の構築を獲得していけるのか否かということ事です。

労働運動のルネッサンス

その復権をかけた闘いにとり
一・二・一八労働者集会は、以上の四つの柱を軸にして、闘う労働運動の新しい潮流を目指して開催されます。

われわれは労働運動の復権ルネッサンスとも言うべき原点の闘いを自覚し、この道を進まなければならない。
全労働者を糾合し、「さらに大胆に全国にはばたこう」路線を拡大する勢力を結集しよう！

集会後、全国から結集した労働者・市民・学生の怒りを体現するかのよに「村山内閣打倒！」を貫徹した。

訃報

新小岩支部書記次長 川田 伸夫 君においては、十一月二三日朝、病氣のため急逝されました
謹んでご冥福をお祈りいたします

通夜 十一月二五日 一八時から
告別式 十一月二六日 一三時三〇分から
住所 千葉市花見川区浪花町九一〇一六〇
(いずれも自宅にて)